北海道医歌人会詠草

花

北広島　古屋雅三知（ふるやまさみち）

春浅き洞爺湖畔の樹々の間は白きこぶしの花のみが映ゆ
鯉のぼり泳ぐ川岸　風寒くそめいよしのの花乱れ飛ぶ
遊歩道漫（そぞ）ろ歩けば雨上がり色鮮やかにパンジーは咲く
通ひ来て　明日よりは来ぬ通勤路　レンギョウの花　来年も咲け
クロッカス庭で咲けりと小鉢置き　10年続きし外来終わる

月の雫

函館　水関（みずせき）　清（きよし）

漆もて割れ目をつなぎ　載せる金（きん）　若葉漏れくる陽に輝けり
青々と沁み入るように色冴ゆる　豆のスジ除（と）る　指にはつ夏
友といふ囮（おとり）を放ち　瀬に紛れ　月の雫を纏ふ鮎釣る
そこに居る　猫の喉元くすぐれるごとくに微かな　風の指先
アカシアの白き花房揺るる夏至　香（か）を積み上げて　夕暮れを待つ

引っ越し

士別　竹内（たけうち）　幹夫（みきお）

高齢鬱引越鬱に転勤と重任いずれも危険因子（リスクファクター）
蝦夷桜吉野にも似てその開花　麓から峰日々登りゆく
朔北の地なれどさほど日を置かず新茶の届く文明は良し
静寂（しじま）のみ車の音も風もなし桜の散る音ほらきこえさう
文明の光届かぬ新住居　暗闇だけは贅沢にあり

最近みた光景なのか？

滝川　村田（むらた）　英俊（ひでとし）

蕗の薹咲きいる頃の電車には新入生のあふるる車内
蝦夷延胡索咲きほこる園内にパークゴルフの人ら行き交う
米抜きの料理をつくる年金で賄いきれぬこの物価高
あのひとは辞めたる者を悪く言う自分の瑕疵に気付きながらも
甘い指示言ったあとからすり替えるうまくゆくから味を占めてる

柿

札幌　浜島（はまじま）　泉（いずみ）

新聞の運勢学び　本州の柿食ひ種を鉢に埋（うづ）めつ
冬晴れに無意根山のみ雲荒れて　散歩の頬へ北西の風
レンジャクやヒヨドリどもが　ナナカマド啄（つば）みに来る大寒となり
朝あさの峰の輝き　去る夏の登山の折りを想ひ出だしつ
西山の高校の窓煌めく朝　ナトリウム灯いろ季節の標（しるべ）

TOKIO

釧路　児玉（こだま）　昌彦（まさひこ）

尽きることなく湧きいずる東京の人波の中　植物の我
出張のサラリーマンでにぎわえるビジネスホテルに響く目覚まし
電子辞書はさんで商談進んでる　日中貿易　ホテルの朝に
円安で外人あふれる街中に「億ション」増えるクレージー・シティー
太モモを丸出しにして闊歩する女子高生のミッドナイト・ブルース